

地域医療に関する議論の進め方について

1 経過・論点

平成 26 年 7 月以降延べ 13 回、北大阪健康医療都市（健都）を中心とした健康・医療のまちづくり会議を開催し、健康・医療のまちづくりに向けて、構成員から様々な御意見等を頂戴しております。平成 27 年 8 月 5 日には、それまでの議論を踏まえ「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方についての中間報告」としてまとめ、その中で健康・医療のまちづくりの実現に向けた個別具体の論点として、「(1) 地域医療について」、「(2) 健康・医療のまちづくりについて」という 2 つのテーマを設定しました。

本会議には、吹田市・摂津市の三師会を始め、健都に関わる医療関係者に多数出席いただいていることから、「(1) 地域医療について」に関するテーマを議論し、その中で特に、

- ア. 両病院（国循、市民病院）が隣接することによる連携・機能分担
- イ. 両病院が吹田操車場跡地に移転することによる地域の診療所及び薬局との連携・機能分担
- ウ. 両病院が吹田操車場跡地に移転することによる近隣病院との連携・機能分担
- カ. 吹田市（豊能医療圏）、摂津市（三島医療圏）の市境という立地

を中心に議論していきたいと思っております。

2 今後の進め方

これまでの会議において出た地域医療に関する意見を事務局で抽出し、別紙にまとめました。それらを踏まえて、現在の検討状況の報告や、今後の連携強化等に向けた方法の提案などの議論をお願いできればと考えています。

3 まとめ方

本会議を今後も年 3 回程度開催し、国立循環器病研究センターが北大阪健康医療都市に移転し、稼働を開始する平成 31 年度中を目途に、「健康・医療のまちづくりに関する考え方」としてまとめ、関係者で確認の上、共有します。

北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方について 中間報告【概要】

<経緯>

- ◆ 吹田操車場跡地^(※)では、平成 30 年度を目途とした国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の移転を控え、循環器病予防を中心とした“健康・医療のまちづくり”を推進
- ◆ 平成 26 年 7 月以降、「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議」^(※)で、7 回にわたって、地域医療の在り方等を議論

(※1) 名称: 北大阪健康医療都市、愛称: 健都(けんと、KENTO)
 (※2) 第1回～第6回の会議名称は「吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議」

1. 基本的な考え方

すべての関係者

- ◆ 「国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に関する基本的な考え方」を念頭に、健康・医療のまちづくりに向けて協力・連携
- ◆ 生活習慣病予防や健康づくりの先進的なモデル地域を目指し、全国・世界へ発信
- ◆ 周辺の地域も含めた、広く地域医療の質の向上等に資する取組の推進

- ◆ 上記達成のため、
 - ・ 各主体が以下の役割を果たすとともに、
 - ・ 市民、NPO、団体、企業などと連携・協働

吹田市・摂津市

吹田保健所、茨木保健所とも協力して、地域医療の連携支援や意欲的に健康づくりに取り組む市民・企業を増やす健康増進施策等の推進

国立循環器病研究センター

地域に密着しつつ、ナショナルセンターのミッションである循環器病の予防と制圧の取組を推進

市立吹田市民病院

隣接する両病院ならではの連携した医療提供体制の構築、地域医療関係者との連携、地域医療の質の向上に向けた取組の推進

医師会、歯科医師会、薬剤師会

病院、診療所、薬局間の円滑な連携を推進

2. 個別具体の論点についての考え方

(1) 地域医療について

ア. 両病院（国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院）が隣接することによる連携・機能分担

- ◆ 診療科目の調整・連携、患者受入れの協力等、二つの急性期病院が隣接するからこそその連携や機能分担を推進

イ. 両病院が吹田操車場跡地に移転することによる地域の診療所及び薬局との連携・機能分担

- ◆ 地域の診療所及び薬局との連携や機能分担に向けた検討を推進

ウ. 両病院が吹田操車場跡地に移転することによる近隣病院との連携・機能分担

- ◆ 地域医療構想の策定動向等を踏まえ、移転後の病院間連携について、吹田保健所、茨木保健所を中心に必要な支援等を実施

エ. 国立循環器病研究センターを核とした地域における予防医療の実施・啓発

- ◆ 国立循環器病研究センターによる地域医療関係者、行政、企業と連携した先駆的な循環器病予防モデルの実施等^(※)

(※) 例えば、吹田市、摂津市等の協力を得て、健康、医療及び介護に係るデータを活用した分析、新たな住民コホート研究の開発等を推進

オ. 平成 37 年（2025 年）に向けたこのまちの地域包括ケアシステムの構築

- ◆ 北大阪健康医療都市ならではの医療・介護連携等の検討を推進
- ◆ 市立吹田市民病院が回復期リハ病棟の導入を検討していることを踏まえ、回復期から慢性期への移行や在宅復帰の連携等を推進 等

カ. 吹田市（豊能医療圏）、摂津市（三島医療圏）の市境という立地

- ◆ 地域医療構想の策定動向等を踏まえ、救急患者の流れ等、医療圏の相違による広域的な地域医療の課題について検討を推進
- ◆ 移転に伴う両病院へのアクセス向上のための検討 等

(2) 健康・医療のまちづくりについて

ア. 健診受診率の向上をはじめとする健康づくり

- ◆ 特定健診や特定保健指導、がん検診の受診率向上
- ◆ 北大阪健康医療都市のまちづくりを契機として、健康づくりへの市民の機運の醸成を推進 等

イ. 健康指標等からみた課題

- ◆ 吹田市、摂津市の健康寿命について、経年比較等による評価を実施
- ◆ 国保データ等の分析を進め、疾病予防等を推進 等

ウ. 北大阪健康医療都市におけるまちづくり

- ◆ 国内外から多くの人が集まるまちづくり
- ◆ 移転後の国立循環器病研究センター内にオープンイノベーションセンター（仮称）を設置し、共同研究の拠点づくりを推進
- ◆ 両病院は駅前商業施設（JR 西日本）とともに、まちづくりとの調和、「学び」と「体験」の場の提供等、健康・医療のまちづくりに貢献
- ◆ 駅前商業施設（JR 西日本）が循環器病予防を中心とした健康・医療のまちづくりに調和する施設となるよう、連携・協力
- ◆ 吹田市が整備する健康増進広場及び高齢者向け複合居住施設について、国立循環器病研究センター等は助言等の協力
- ◆ 都市型居住ゾーンでは、国立循環器病研究センター等と連携し、「健康住宅地」の形成を目指す
- ◆ 北大阪健康医療都市の各街区及び周辺道路において、路上喫煙禁止とすべく検討
- ◆ 訪れた人が健康等を意識し、楽しめるよう、歩行者空間等のハードからウォーキングイベント等のソフトまで、各種環境を整備
- ◆ 健都イノベーションパークについて、オール関西の更なる発展を牽引する、新たなイノベーション拠点の形成を目指し、企業等を誘致
- ◆ 地域住民が健康・医療のまちづくりに主体的に参画できるよう、健康づくりを担うリーダー等の育成・支援
- ◆ 多様な主体によるエリアマネジメント組織の設立、活動への支援
- ◆ 「健康・医療」まちづくりポータルサイト等による効果的な広報 等

3. 今後の議論の在り方

- ◆ 本中間報告で整理した各取組に関する「工程表（ロードマップ）」の作成と定期的な進捗確認、必要に応じワーキンググループの設置
- ◆ 吹田・摂津各市の全市的な地域医療の連携体制の強化、健康づくりの推進等に向けた議論の実施

以上、「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議」に参画する、国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、吹田・摂津両市の医師会、歯科医師会、薬剤師会、吹田保健所、茨木保健所、吹田市、摂津市で確認

地域医療に関する議論の概要

	今後の課題等に向けた意見	当時の回答
(ア) 両病院(国循・市民病院)が隣接することによる連携・機能分担	<p>○ <u>救急対応について、両病院の救急担当者がコミュニケーションを取れるような仕組みは考えているのか。救急隊との調整も重要。</u>【第13回・吹田市医師会】</p>	<p>→ 両病院の救急連携は要であり、消防との調整も重要であると認識。【国循】</p>
	<p>○ <u>吹田市民病院に市外の患者が増えて吹田市民が受診しにくくなるような状況が発生しないか。どのような対策が考えられるか。</u>【第2回・摂津市薬剤師会】</p>	<p>→ 立地が摂津市との境目であるうえに、国循と医療連携もあり、<u>患者を区別することはできない。</u>【市民病院】</p>
	<p>○ <u>新市民病院整備の基本方針は以下のとおり。</u>【第2回・市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>救急医療の充実</u> (救急専用病床の設置、救急診療科の設置、災害時等における行政や地域の医療機関との連携・協力による医療提供) ・ <u>高齢化に伴う疾患への対応とリハビリテーションの充実</u> (高齢化に伴い増加する疾患への対応、急性期のリハビリ及び回復期のリハビリを充実) ・ <u>地域の医療機関や介護事業等との連携推進</u> ・ 政策医療と健全経営の両立 ・ マグネットホスピタルの実現 <p>(研修制度の充実や自己研鑽の支援を充実するなど医療スタッフの働きやすい環境整備)</p>	
	<p>○ <u>市民病院で国循の精神科の合併症の患者を診ることはできるか。</u>【第2回・吹田保健所】</p>	<p>→ 現時点では常勤医師確保の目途が立たないので<u>精神科・神経科の対応は難しい。</u>【市民病院】</p>

地域医療に関する議論の概要

	今後の課題等に向けた意見	当時の回答
(ウイ) 両病院が吹田転車場跡地に移転することによる転地す域の診療に所よるび近隣局病と連の携連・携機・機能分担	<p>○ 国循が移転する吹田操車場跡地は吹田市と摂津市の境にあるため、<u>これから摂津市とは新たな関係を築いていきたい。</u>【第1回・国循】</p>	<p>・摂津市医師会内で連携登録医制度への参加を推奨し、循環器疾患の医療連携を進め、診断・治療の向上に努めたい。また、地域医療の向上に向けた様々な取組に協力をお願いしたい。【第3回・摂津市医師会】</p> <p>・循環器病に関して、口腔ケアや歯周病との関係が指摘されており、こうした観点からの研究を進めていただくとともに、<u>病院内における口腔ケアの取組が充実されることを期待。</u>【第1回、第3回・摂津市歯科医師会】</p> <p>・<u>国循との連携(研修等への協力、共同研究の実施、薬局窓口を活用した調査への協力)を期待。</u>【第3回・第13回摂津市薬剤師会】</p>
	<p>【医療モールのコンセプトに関する意見】</p> <p>○ 医療モールに一般診療所は不要。脳ドッグや禁煙外来など国循や市民病院の機能を補完するものなら理解する。また、病児病後児保育はしてほしい。【第5回・吹田市医師会】</p> <p>○ 医療モールも健診センターも、事業者募集の際に「国循や市民病院と連携する」と提案をした。この点をしっかり守ってほしい。【第8回・吹田市】</p>	<p>2街区で実施される病児・病後児保育に協力していただける小児科医が内定。【第11回・13回、オレンジ総研・アイン】</p>
	<p>【医療モールの診療科に関する意見】</p> <p>○ 両病院の医療機能を補完する医療モールとなるべき。<u>精神科を入れ、両病院としっかり連携してほしい。</u>【第8回・吹田保健所】</p> <p>○ <u>一般歯科もマスト。</u>両病院との連携を検討するようにお願いします。【吹田市】</p>	<p>整形外科、消化器内科、心療内科、歯科、小児科、眼科、皮膚科が内定。【第11回、12回、13回・オレンジ総研・アイン】</p>
	<p>○ 病診連携について、今までよりもさらに<u>密度の濃い連携方式の検討が必要。</u>かかりつけ医の重要性の周知が必要。【第2回・吹田市医師会】</p>	

地域医療に関する議論の概要

	今後の課題等に向けた意見	当時の回答
<p>(カ)吹田市(豊能医療圏)、摂津市(三島医療圏)の市境という立地</p>	<p>○ <u>地域連携パスについて、豊能と三島の両医療圏だけでも共通化などはあるか。</u>【第3回・吹田市】</p>	<p>・大阪府が関わっているものは、脳卒中と糖尿病と心筋梗塞とがん。 ・がんは当初から府内統一。 ・糖尿病については、豊能圏域では糖尿病手帳も使うということで統一されつつある。 ・心筋梗塞については、豊能医療圏では国循を中心にワーキング等で推進を進めているところ。 ・摂津市、茨木市にも豊能圏域のパスを一部使っていただいている。 ・三島医療圏では高槻の医大を中心に作られたパスが別にまわっている。 ・脳卒中について、豊能医療圏と三島医療圏で違うものが動いているので、今の段階ではまだ統一することは難しい。【吹田保健所】</p>
	<p>○ <u>移転後の病診連携はどう考えるか。</u>【第7回・吹田保健所】</p>	<p>脳卒中や心筋梗塞の地域連携パスについては、豊能だけではなく、三島の共通化も考え、検討していきたい。【国循】</p>
	<p>○ <u>摂津市は三島医療圏に所属するため、救急を含め、制度上は高槻市や茨木市と協力することになる。ただ、実際の距離では吹田市が近いため、患者の動きとしては、済生会吹田や市民病院に行くことになると思う。そのため、患者の動きに合わせて吹田市内の病院と協力関係を結んでいく必要があると思っている。</u>【第13回・摂津市医師会】</p>	
	<p>○ <u>搬送時間によって救命率が全然違う循環器については、国循と何らかの取り決めをして、搬送するという形を取りたい。</u>【第13回・摂津市医師会】</p>	<p>国循は二次医療圏よりも広域で患者をカバーすることで、地域医療構想の遂行に役立つと思っているため、摂津市の急性期の循環器患者については、対応できる範囲でしていく。【国循】</p>